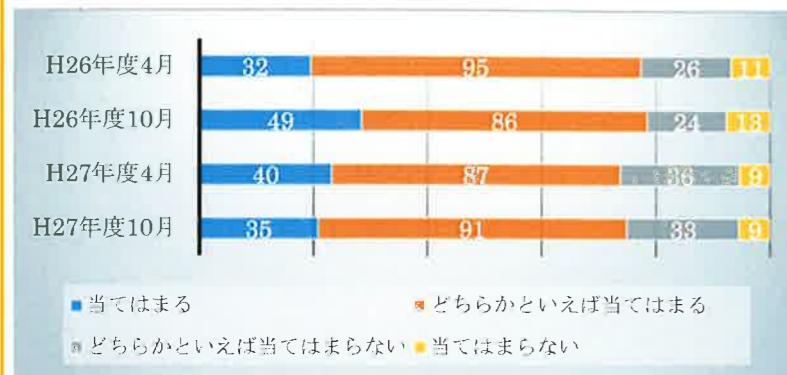


アンケート結果

■生徒アンケートの実施

道徳の時間は好きですか？

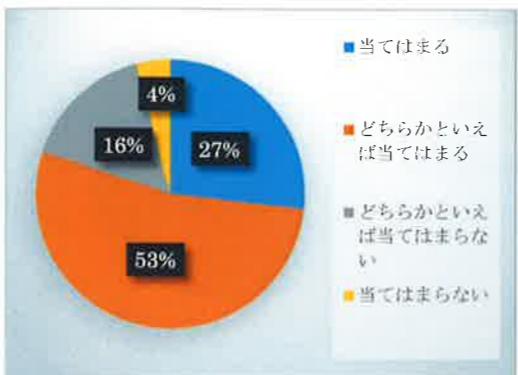
※今年度2、3年生173名による昨年度との経年比較



2年間通して、道徳の好きな生徒が多い

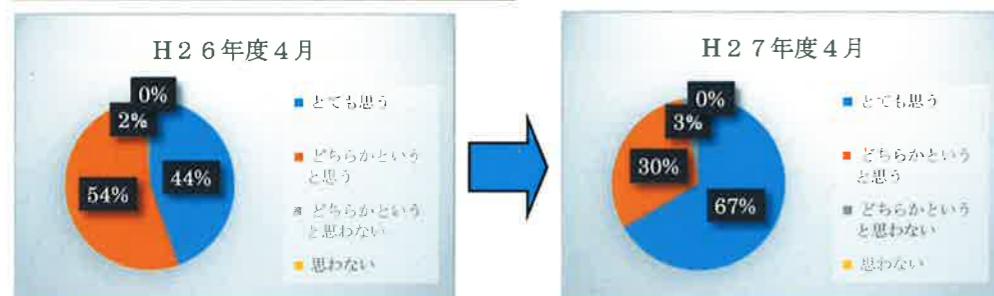
「心を留めて」を通して、友達の考えがわかるようになりましたか？

※今年度全校生徒280人の結果、10月実施



■保護者のアンケート結果より（4月授業参観時に実施 ※昨年度との比較）

道徳の授業は大切だと思いますか？



今年度は、保護者参加型の道徳授業を実施した後、アンケートを行った。保護者にも道徳を肯定的に受け止めていただけだ。

成 果

- 2年間通して、道徳の授業の大切さや必要性をしっかりと感じている生徒が多い。また、保護者への発信も効果が見られ、学校の取組を肯定的に受けとめいただけている。
- 友達の考えを知ることで、他の人の意見から自分にない考えを学ぶことができると感じる生徒が増えた。
- 昨年と同様、今年度も研究授業やリレー授業など学校全体で取り組むことで、教員の道徳への意識が高く、指導力の向上につながっている。
- 道徳だよりやホームページで授業の様子や生徒の感想等を家庭・地域へ発信してきた。保護者から意見をもらうことで、双方向の情報発信により、連携を図ることができた。
- 保護者アンケート調査や意見交流から、道徳教育は大切で、充実を図ってほしいという意見が多く、道徳教育に期待する保護者の思いや実態を把握できた。

今後の課題

- ◆道徳の授業改善をさらに進め、特に生徒の多様な考えを引き出し、ねらいに迫る発問を考えていく。
- ◆これまでの道徳の授業形態に固執することなく、新たな形態も積極的に実践していく。
- ◆地域人材を生かした授業や保護者参加型の授業を、学校の定例の活動として継続していく。その上で、より家庭・地域と学校がつながり、ともに道徳教育を推進していく実践を検討していく。

平成27年度石川県教育委員会 いしかわ道徳教育推進事業

人と地域を生かした道徳教育講座

道徳教育研究主題

豊かな学び合いを通し、生き方を深める道徳の時間

～自分の考え方を持ち、伝え、学び合う授業づくりを目指して～

研究の柱

家庭や地域との連携

- ①保護者との連携
- ②通信の発行
- ③地域人材・教材の活用

学校の教育活動全体を

通しての道徳教育の充実
心のテーマに沿った体験活動の充実

子どもたちの 心の成長

道徳の授業の充実

- ①発問の工夫
- ②板書の工夫
- ③掲示の工夫
- ④模擬授業・リレー授業
- ⑤研修会の充実
- ⑥全教職員による授業

川北町立川北中学校

〒923-1267 能美郡川北町竜ヶ屋82

(TEL) 076-277-0354 (FAX) 076-277-1128

<http://jh-kawakita01@ed.town.kawakita.ishikawa.jp>

<家庭や地域との連携>

①保護者との連携

○意見交流会

保護者との意見交流の場を持ち、家庭での取組や学校への意見等、話し合いを行っている。

○保護者参加型の道徳の授業

4月の授業参観では、全クラスにおいて担任による道徳の授業を行った。その中で、生徒だけでなく保護者にも発問に答えていただき、考えを交流した。



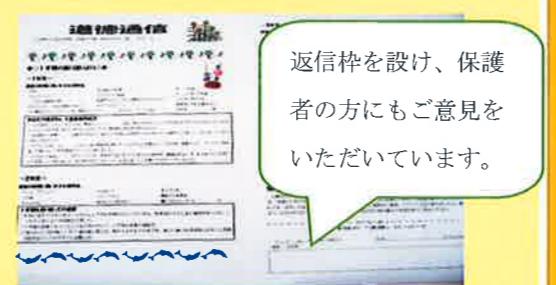
②通信の発行

○双向性のつながりのある道徳通信の発行

定期的に各学年の道徳の授業の様子や生徒の感想を載せた道徳だよりを発行している。

○ホームページへの掲載

道徳通信を学校ホームページにも掲載している。



③地域人材・教材の活用

○ゲストティーチャーの活用

ゲストティーチャーとして、地元、川北町在住の方々に来ていただき、主題に迫る体験談等を話していただき、より心に響く授業を目指している。



○地域教材の活用

いしかわ版道徳教材や映像資料を活用した授業を、全学年において計画的に実施している。身近な題材であり、生徒の関心が高く、心に訴えかけるものとなっている。

<学校の教育活動全体を通しての道徳教育>

体験活動の充実

道徳の時間で補充・深化・統合

毎月、心のテーマに沿って道徳の授業を実施している。行事との関連も図り、体験活動と道徳の時間が響き合うようにしている。



今年度の文化祭のモニュメントには、生徒だけでなく、保護者にも参加してもらい、テーマを元に思いを綴った。生徒は興味をもって、交流を深めていた。



研究に関わる具体的な取り組み

<道徳の授業の充実>

①発問の工夫 資料や生徒の実態に応じて効果的な発問を取り入れる

中心発問では、生徒の問題意識や疑問などが生み出され、ねらいとする道徳的価値に迫る発問を心がけている。さらに、生徒が様々な考えを交流できるよう、考えを伝えたくなるような発問を吟味して、実践している。

授業の形態としては、テーマに迫る発問や場面ごとの発問を、資料や生徒の実態に合わせ、効果的に用いている。



③掲示の工夫

○心を留めて

道徳の授業等で書いた、意見や感想を各教室や廊下に掲示し、考え方の交流の場としている。



○道徳掲示板

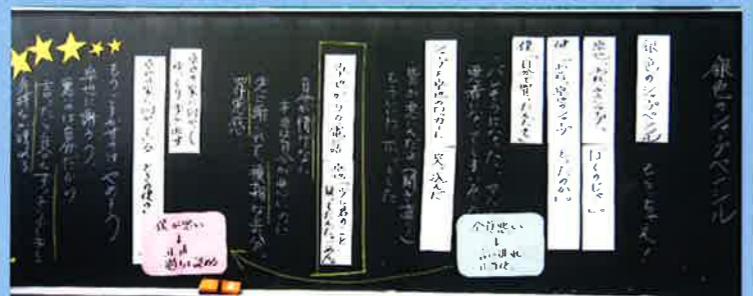
学校内の各場所に、その月の心のテーマに沿った道徳的資料を掲示し、環境整備をした。



②板書の工夫

授業の内容を、生徒の思考に沿ってわかりやすくとらえられるよう、構造的な板書を目指した。生徒の思考が深まり、発言にも活気が生まれている。

校内研修において、発問の工夫とともに力を入れている。



④模擬授業・リレー授業

模擬授業を通して、生徒の発言を予想し、問い合わせの発問等を議論した。その後、各組において順次授業を行い、授業ごとに工夫・改善を重ねた。模擬授業における発言の予想と実際の生徒の反応のズレを修正することで、より広がりのある発問を練り上げることができた。



⑥全教職員による授業

道徳の授業を、学級担任だけでなく、級外の先生や校長先生・教頭先生による授業も行う計画で進めている。様々な先生と心の触れあう時間を過ごす中で、いろんな考え方に対する機会となり、生徒にとって充実した時間となっている。

